彙報

◉原博士逝去

本會評議員京都帝國大學教授文學博士原勝郎氏は昨冬十二月初旬膈を病み、京都大學病院に入られしが、病症直腸癌と決したるを以て、ラジューム療法を受くる爲に神戸三ノ宮佐野病院に移り、專ら療養に勉められしも、本年一月十二日に至り病勢頓に革まりて全く危篤に陷り十四日遂に逝去せられたり。寔に痛惜に堪へざるなり。危篤の趣天聽に達するや、特旨を以て從三位勳二等に陞叙せられたり。十五日午後一時より京都帝國大學文學部陳列館に於いて告別式執行せられ、學内幷びに諸方面の知人卒業生多數來會し靈前に燒香を行へり。

博士は明治四年盛岡市に生れ、二十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し同年大學院に入學、三十二年第一高等學校教授となり、三十五年文學博士の學位を授けらる。三十九年最近世史研究の爲英米佛に留學を命ぜられ、四十二年歸朝、直ちに京都帝國大學文科大學教授に任ぜられ以て今日に及べり。この間大正二年には支那南海方面視察の途に登り、八年には更に歐米各國を巡遊し審さに大戰後に於ける世界の狀勢を觀察せられたり。十一年以來は文學部長の繁職に在り、學部の施設經營に努めらるゝ所甚だ多かりき。博士は多年その專攻たる最近世史の研鑽に最も努められ、大學に於いて最近世史一般を初めとし、米國史・ビスマーク及獨逸帝國史・露西亞近代史・東南亞細亞植民史等を講述し、其蘊蓄を披瀝せられし以外、屢外交時報等に時事問題國際政局に對する卓拔なる論議を寄せられ、且「昨年の歐米」二卷「南海一見」の如き精到なる調査や鋭利なる觀察の餘に成れる述作を公にせられたり。更に特筆すべきは、世界大戰勃發以來博士が其研究に沒頭せられ、普く史料を蒐集して、これに犀利なる批判を下し偏へに精緻と嚴正を旨とせる大戰史の編述に志されしことにして、數年來大學に於いて其講義を續けられつゝありし「世界大戰史」の稿本は、既に印刷に附せられしもの三冊八百餘頁に及べり。この最も心血を注がれし得意の研究が博士の逝去と共に中絶に歸す

るの已むなきに至れるは、學界の爲に深く惜むべきことなりとす。尙博士は他面に於いて、國史殊に中世武家時代に對する造詣深く、「日本中世史」第一卷は夙に斯界に喧傳せられたる名著たり、其他史學雜誌藝文國華等に發表せられたる文化史的方面の論文は孰れも學界に刺戟を與へしものにして、博士一流の見識を示し居れり。更に近時大和會より出版せられたる英文「日本史序說」は、博士が日本學者として歐米人士に我國文化發展の實相を紹介せられたる勞を多とすべきものたると共に、國史全般に對する博士の見解を窺知するに足る著述なり。博士逝いて後、その親しみ易き快活なる風貌と談論風發當るべからざるの氣概とを追想すれば、吾人は轉た寂莫と痛恨の念を禁じ得ざるなり。〔植村〕

◉史學研究會

例會　二月九日午後一時より文學部第五教室に開催左の講演あり來會者八十餘名午後六時散會。

一、宮古島の土俗に就いて

文學部講師　ネフスキー君

先づ同島の地理を說いてから、島人の結婚に就いて廣く一般に行はれてゐる風習を詳細に紹介して、タラマ島のサラハマ、宮古本島のボラに存する結婚の奇風に及び、次にイラコ島の乘瀨で毎年舊曆の十一月と十二月の上旬とに行ふ一種の神祭りを說いて、なは氏の採集した諺と謎との面白い部分を流暢なる日本語で語つた。

一、王朝に於ける貨幣の流通及び其の社會的意義

文學士　西田直二郎君

王朝に於ける貨幣流通の狀は近時の古文書の發見又は考古學的發掘によつて事實の闡明せらるものあるを言ひ我國貨幣流通の初期に於て錢貨が民衆の生活に結び付く徑路より土地と貨幣が資財として性質上相異るものある點を示し。資財に對する觀念の發展と社會的事實の關係宗教信仰班田制度崩壞に及ぼせる貨幣の意義を論じた。

◉讀史會

例會　一月二十五日(金)午後六時より學生集會場にて開催左の講演ありたり。

一、選擇集の撰述年代と其相承人考　井川定慶君

法然の選擇本願念佛集の撰述年代については古來淨土宗側と眞宗側との間に論爭あり今之を列擧すれば建久三年、同八年、同九年、正治年中、建仁元年、元久元年の六說あるも、仔細に覈ふれば建久九年、正治年中、元久元年の三說になるとて、各之を批評した末建久九年を正しと斷じ、更にその相承人に就ても、親鸞說を駁して幸西、聖光、澄西、長西等なりと論ぜり。

一、朝鮮旅行談　文學博士　三浦　周行君

教授が昨冬渡鮮踏査せられし花園倉の舊址の事より室町時代以後の日鮮貿易の實情を說明せられたりしが、朝鮮政府の我貿易を歡迎せざりしを、日鮮商人の狡猾、聘禮貿易の內情など興味多かりき。其他安東の柳成龍及明將の筆蹟星州の史庫跡等についても語られたり。

例會　二月二十九日(金)午後六時より學生集會場にて開催、左の講演及參考品の陳列、質問應答ありて十時散會せり。

一、莊民爭議に關する二三の考察　牧野信之助君

莊民は小作地を恩給せられ居る百姓の義にして、その中に土民と浪人との二階級あり、所謂惡黨の中には浪人多く、初めは追放せしも後却つて之を懷柔せるが如し。爭議は主に莊官と莊民との衝突にして、莊民側の武器は逃散なるが領家は概ね百姓の申出を承認し居れり、莊園の所務は請負と直務とあり云々。

一、最近に於ける歐人の日本研究　西田直二郎君

近時の歐人の日本研究は、過去に於ける如く、單に讃美し、又は好奇心に由るにあらずして、眞面目に日本の實狀を知らんとする科學的研究の域に進み居れり。英獨の諸新聞の論說を引き、且つ近刊の種々の日本關係著述小冊子等を示して、歐米に廣く讀まるゝ學術的研究と趣味に關する著作を紹介し特に彼の地に於ける日本美術、佛敎美術、建築、浮世繪研究の狀態及その影響等を說明せられたり。

●支那學會

例會　一月二十五日午後六時より文學部第六敎室に於て開催左の講演あり來會者三十餘名午後十時散會せり。

一、曲陽の北岳廟　文學士　井上以智爲君

北岳廟は東岳廟に比し規模半に足らず今は曲陽縣の農事試驗場となり唐碑四、宋之明清碑若干を遺存せるに過ぎざることより恒山の位置に移動ありし爲北岳と北岳廟との關係は早く宋代より不明となり要するに北魏以後直隷省の恒山の名稱が西方へ遷りたるものならむ云々。

一、春秋の曆に就て　理學博士　新城　新藏君

支那の曆法が春秋の中頃より整頓せられたることを春秋の書の上より實證せらるゝことを論じ、三正交代論の戰國時代に起りしこと、漢書律曆志左傳の著者が既に春秋時代の曆法に暗かりしことを證述し杜預の曆法研究等に論及せられたり。

豫餞會　一月二十三日午後四時より學生集會所南室に於て開催す記念撮影後講演に入る。

陸修靜に就て　名畑　應順君

陸修靜に關する記錄は諸書に散見し北齊に於る道佛の法論にも出席し又虎溪三笑の一人にも見ゆるが此等の陸修靜は同人に非るか若くば何れかゞ後世の附會なりと考證し道教に於る陸修靜の位置に論及さる。

出席者、狩野、高瀨、內藤、新城教授、羽田、小島助教授はじめ二十餘人晩餐を共にして九時散會。

會報

●寄贈交換圖書

國學院雜誌　三〇の一・二・	國學院大學
史學雜誌　三四の一〇・一一・三五の一	史學會
商業と經濟　十三年	長崎高等商業學校研究館
朝鮮史講座　四・五・六	朝鮮史學會
東洋思想研究　一一・一二・一三	東洋思想研究所
東洋學報　一三の三	東洋協會學術調査部
觀想　創刊號	東洋大學
經濟論叢　一八の一・二	京大經濟學會
龍谷大學論叢　二五三	龍谷大學論叢社
史學　二ノ四	三田史學會
T'oung pao (通報) Vol. XXII. 3	Paul pelliot
歷史地理　四三の一・二	日本學術普及會

●會員動靜

○入會

京都府相樂郡棚倉小學校　長江正二

香川縣高松市、師範學校　大山景敬

東北帝國大學法文學部政治史研究室

（右紹介者　島田貞彦）

大阪市西區阿波座上通二丁目十四　室賀萬之助

（右紹介者　森野保次郎）

東京市外大井町四九九五　三島一

（右紹介者　中江喬三）

京都市上京區寺町通石藥師東入　大久保利謙

（右紹介者　三浦周行）

○退　會

高橋清之助　井上通泰　南葵文庫　東川愛胤

○死　亡

原　勝郎　杉本正介　萩野由之